

海軍公報

(部内限) 第四千六百三十九號

昭和十九年三月十三日(月)

海軍大臣官房

○令達

官房備第一九號ノ二

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十九年二月二十五日

海軍大臣

表中第二十二海軍軍用郵便所ノ項設置所ノ欄「第一艦隊」ヲ「第一艦隊ノ一艦」ニ、同所屬ノ欄「第一艦隊」ヲ「第二艦隊」ニ改ム

(參照昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ、(内令提要卷一、六四ノ九頁)

官房人第三五六號

昭和十九年勅令第二百二十四號ノ規定ニ依リ海軍齒科醫科士官ヲ各號ニ依リ採用ス

昭和十九年三月十一日

海軍大臣

一 齒科醫師免許證ヲ有スル者ニシテ三年以上齒科醫業ニ従事シ現ニ海軍ニ於ケル齒科診療ニ服務中ノモ

ノニシテ海軍齒科醫科士官タランコトハ本年四月三十日迄ニ到達スル如ク別紙様式ニ依リ願書ニ履歷書ヲ添ヘ順序ヲ經テ海軍大臣ニ願出ヅベシ

二 所轄長ハ前號ノ志願者ニ就キ別紙様式ニ依リ所見表ヲ調製シ第一號ノ規定ニ依リ願書ト共ニ之ヲ進達スベシ

三 任用試験ハ之ヲ實施セズ

(別紙三葉添)

官房人機密第五七八號

所屬長官ハ三月三十一日現在員(特ニ指定スル者ヲ除ク)ニ付左記標準ニ依リ年度末賞與ヲ支給スベシ但シ本年三月中旬ニ召集解除又ハ服役延期解除ハ海軍軍人ニ對シテモ右ニ準ジ召集解除又ハ服役延期解除ノ日現在ヲ以テ年度末賞與ヲ支給スルコトヲ得

昭和十九年三月十一日

海軍大臣

記

海軍公報(部内限) 第四千六百三十九號 昭和十九年三月十三日

三三七

0709

考 備	區 分	賞 與 額 （本俸又ハ 給料ニ付）		
		扶養家族 ナキ者	同三人 以內ノ者	同四人 以上ノ者
士官、特務士官、 候補生、見習尉官、 高等文官同待遇者及 勅奏任官待遇囑託者	二・〇月分 以內	二・七月分 以內	三・〇月分 以內	
准士官、下士官、 判任文官同待遇者、 判任官待遇囑託者、 無待遇囑託者、雇員 及傭人（月給者）	二・二月分 以內	二・九月分 以內	三・二月分 以內	
雇員及傭人（日給者）	六六日分 以內	八七日分 以內	九六日分 以內	
兵 長	一・五月分以內			
上等兵、 一等兵 （昭和十八年十 二月一日以後 入國又ハ入隊 ノ者ヲ除ク）	一・二月分以內			
備 一 扶養家族ノ範圍ハ海軍臨時家族手當支給規 則第三條所定ニ準ズ 二 囑託者中一時ノ報酬ヲ受クル者及本官アル 者ニ對シテハ支給セズ				

官房機密第二四三號

海上護衛總司令部所屬特設船舶警戒部ノ支拂ニ屬スル
經費ハ普通經費支辨トシ横須賀海軍經理部長ヲ支出
官、特設船舶警戒部勤務ノ首席主計科士官ヲ資金前渡
官吏トス
本令ハ昭和十九年三月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十九年三月十二日

海軍大臣

○通牒

官房機密第四三號ノ九

昭和十九年三月十三日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十八年官房機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵
便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄部隊區別符表（其ノ二）中ニ「中部太平洋方面艦
隊司令部」ヲ參七六「第十四航空艦隊司令部」ヲ參七

0710

七「第三魚雷艇隊」ウ參七八「第十八魚雷調整班」ウ參七九「第十九魚雷調整班」ウ參八〇「第二十魚雷調整班」ウ參八壹「第二十一魚雷調整班」ウ參八貳「第二十二魚雷調整班」ウ參八參「第二百六設營隊」ウ參八四「第二百十五設營隊」ウ參八五「第二百三十五設營隊」ウ參八六「第四十四警備隊」ウ參八七「第二百十八設營隊」ウ參八八「第二百二十七設營隊」ウ參八九「ヲ加フ」

同（其ノ二）中ニ「第三十一航空隊」テ參九「第三十二航空隊」テ四〇「ヲ加フ」

同（其ノ四）中ニ「第十三防疫班」セ壹參四「第十二防疫班」セ壹參五「ヲ加フ」

別表海軍軍用郵便所及同派出所一覽表中第十海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員專任「十九人判任」ヲ「二十七人判任」ニ、專務「二十五人雇員」ヲ「三十五人雇員」ニ、第十一海軍軍用郵便所ノ項所屬ノ欄「第四艦隊」ヲ「中部太平洋方面艦隊」ニ、第二十二海軍軍用郵便所ノ項設置所ノ欄「第一艦隊」ヲ「第一艦隊ノ一艦」ニ、所屬ノ欄「第一艦隊」ヲ「第二艦隊」ニ、第一派出所「龍田」ヲ「伊勢」ニ、第三十九海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員專任「十四人判任」

ヲ「十七人判任」ニ改ム

海軍三機密第一〇號ノ一八

昭和十九年三月十一日

海軍省人事局長
海軍省經理局長

關係各所轄長殿

年度末賞與支給ニ關スル件申進

本年官房入機密第五七八號ニ依ル年度末賞與ハ左記ニ依リ取扱フモノト了知相成度

記

一 昭和十八年十二月二日ヨリ本年三月三十一日迄ノ日數ヲ本賞與ノ期間トシ扶養家族數ハ本年三月一日現在ニ依ルモノトス

二 三月三十一日現在ニ於テ未ダ戰死（戰傷死又ハ戰病死ヲ含ム）公表セラレズ俸給又ハ給料ヲ受ケツツアル者ニ對シテハ在籍應（俸給又ハ給料ノ家族渡ヲナシツツアル者ニ對シテハ家族渡應）ニ於テ支給ス

三 海軍文官同待遇者、囑託者又ハ雇員備人ニシテ在籍ノ儘海軍ニ徵集又ハ召集セラレ本年三月三十一日ニ於テ海軍軍人タルモノニ對シテハ海軍文官同待遇者、囑託者又ハ雇員備人タル身分ニ於ケル俸給、報

海軍公報（部内限）第四千六百三十九號

昭和十九年三月十三日

三三九

0711

酬金又ハ給料ニ付徴集又ハ召集中ノ日數ヲ除算シタル勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ在籍應ニ於テ支給シ徴集又ハ召集中ノ海軍軍人タル身分ニ於ケル俸給ニ付徴集又ハ召集中ノ勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ現所屬應ニ於テ支給ス

四 海軍文官同待遇者、嘱託者又ハ雇員傭人ニシテ在籍ノ儘海軍ニ徴集又ハ召集セラレ本年三月三十一日以前ニ現役ヲ離レ又ハ召集ヲ解除セラレ在籍應ニ復歸シタルモノニ對シテハ本年三月三十一日現在ノ海軍文官同待遇者、嘱託者又ハ雇員傭人タル身分ニ於ケル俸給、報酬金又ハ給料ニ付徴集又ハ召集中ノ勤務日數ヲ通算シ算出シタル金額ヲ在籍應ニ於テ支給ス

五 海軍文官同待遇者、嘱託者又ハ雇員傭人ニシテ在籍ノ儘陸軍ニ徴集又ハ召集セラレ本年三月三十一日ニ於テ徴集若ハ召集中ノモノ又ハ其ノ以前ニ於テ現役ヲ離レ若ハ召集ヲ解除セラレ在籍應ニ復歸シタルモノニ對シテハ本年三月三十一日現在ノ海軍文官同待遇者、嘱託者又ハ雇員傭人タル身分ニ於ケル俸給、報酬金又ハ給料ニ付徴集又ハ召集中ノ日數ヲ除算シタル勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ在籍應ニ

於テ支給ス

六 海軍軍人ニシテ大東亞戰爭ニ關シ陸軍ノ勤務ニ從事セシメラレタルモノニ對シテハ陸軍ニ於ケル勤務日數ヲ通算シ算出シタル金額ヲ海軍ノ在籍應ニ於テ支給ス

七 本賞與期間内ニ於テ二回以上召集セラレタル者ノ召集中ノ日數ハ其ノ前後ノモノヲ通算ス

八 海軍文官同待遇者ニシテ昭和十六年勅令第八百四號ノ規定ニ依リ海軍ノ勤務ニ從事シ本年三月三十一日ニ於テ海軍軍人タルモノニ對シテハ海軍文官同待遇者タリシ身分ニ於テ最後ニ受ケタル俸給ニ付海軍文官同待遇者トシテ勤務シタル日數ニ應ジ算出シタル金額ト海軍軍人タル身分ニ於ケル俸給ニ付昭和十六年勅令第八百四號ニ依リ勤務日數ニ應ジ算出シタル金額トノ合計金額ヲ現所屬應ニ於テ支給ス

九 海軍文官同待遇者ニシテ昭和十六年勅令第八百四號ノ規定ニ依リ海軍ノ勤務ニ從事シ本年三月三十一日以前ニ其ノ勤務ヲ解除セラレ再ビ海軍文官同待遇者ト爲リタルモノニ對シテハ本年三月三十一日現在ノ海軍文官同待遇者タル身分ニ於ケル俸給ニ付昭和十六年勅令第八百四號ニ依リ勤務日數ヲ通算シ算出

0712

シタル金額ヲ現所屬應ニ於テ支給ス

十 囑託者又ハ雇員傭人ニシテ在籍ノ儘昭和十六年勅令第八百四號ノ規定ニ依リ海軍ノ勤務ニ從事シ本年三月三十一日ニ於テ海軍軍人タルモノニ對シテハ囑託者又ハ雇員傭人タル身分ニ於ケル報酬金又ハ給料ニ付勅令第八百四號ニ依ル勤務日數ヲ除算シタル勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ在籍應ニ於テ支給シ海軍軍人タル身分ニ於ケル俸給ニ付昭和十六年勅令第八百四號ニ依ル勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ現所屬應ニ於テ支給ス

十一 囑託者又ハ雇員傭人ニシテ在籍ノ儘昭和十六年勅令第八百四號ノ規定ニ依リ海軍ノ勤務ニ從事シ本年三月三十一日以前ニ其ノ勤務ヲ解除セラレ在籍應ニ復歸シタルモノニ對シテハ本年三月三十一日現在ノ囑託者又ハ雇員傭人タル身分ニ於ケル報酬金又ハ給料ニ付昭和十六年勅令第八百四號ニ依ル勤務日數ヲ通算シ算出シタル金額ヲ在籍應ニ於テ支給ス

十二 昭和十八年十二月一日ヨリ本年三月三十一日迄ノ期間内ニ於テ海軍ニ復歸シタル定員外海軍武官ニ對シテハ復歸前ノ所屬省(應)ニ於テ支給ヲ受クルモノトシ海軍ニ於テハ支給セズ

十三 昭和十六年勅令第千二百四號ニ依リ部外ノ文官同待遇者ヨリ海軍文官同待遇者ニ轉官職セシメラレタル者及明治三十八年勅令第四十三號ニ依リ海軍ニ勤務セシメラレタル者(以下臨時職員ト稱ス)ニ對シテハ年末年度末賞與内規第四條ノ規定ニ拘ラズ左ニ依ルモノトス

(イ) 昭和十八年十二月一日ヨリ本年三月三十一日迄ノ期間内ニ於テ海軍ニ轉入シ來レル臨時職員ニ對シテハ轉入前ノ所屬省(應)ニ於テ支給ヲ受クルモノトシ海軍ニ於テハ支給セズ

(ロ) 前項ノ期間内ニ於テ海軍ヨリ轉出スル臨時職員ニ對シテハ其ノ勤務ガ本年三月三十一日迄繼續スルモノト看做シ賞與金全額ヲ轉出前ニ於ケル海軍ノ所屬應ニ於テ支給ス

○ 辭 令

河村 壽郎
徵用中年額貳千七百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(昭和十八年海軍省)

貳千拾圓

高橋 政雄

0713

（各通） 千六百五拾圓 淺田 一 繁

千六百五拾圓 柳 井 薫

千百參拾圓 菅野 孝 始

徵用中年額（各頭書ノ通）ヲ給シ部内限奏任官待遇トス（昭和十八年十月三十一日同） 今井 元 治

徵用中年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス（昭和十八年十月三十一日同） 貳千拾圓 吉原 龜 治

（各通） 千四百七拾圓 江尻 博 方

徵用中年額（各頭書ノ通）ヲ給シ部内限奏任官待遇トス（昭和十八年十月三十一日同） 小川 兼三郎

（各通） 水路部附海軍技手 關塚 良 治

第三十根據地隊司令部附ヲ命ス（昭和十八年九月一日同） 鈴木 誠 治

第四海軍工作部附海軍技手 原 梅 松

第三十海軍工作部附ヲ命ス（昭和十八年九月一日同） 海軍少將 大野 竹 二

參謀部第三部長ヲ命ス（昭和十八年九月一日同） 大本營海軍部

艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス 高雄海軍經理部 鈴木 滋

右同分任出納官吏ヲ免ス（以上昭和十八年三月三十一日支出官海軍省經理局長） 海軍主計大尉 服部 保 正

中部太平洋方面艦隊及第十四航空艦隊司令部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス（昭和十八年四月一日同） 海軍主計兵曹長 廣 瀬 勇

○ 雜 款

○司令潜水艦變更 第六潜水隊司令ハ二月二十五日司令潜水艦ヲ呂號第五十八潜水艦ニ變更セリ

第十二潜水隊司令ハ三月五日司令潜水艦ヲ伊號第七十六潜水艦ニ變更セリ

○電話架設 舞鶴海軍人事部京都事務室（京都市下京區烏丸通七條下ル丸物内）

電話京都下 六七三〇番

○事務開始 高雄海兵團ハ二月一日高雄警備府内ニ於テ事務ヲ開始セリ	第十八魚雷調整班 第十九魚雷調整班 第二十魚雷調整班 第二十一魚雷調整班 第二十二魚雷調整班 ハ三月一日洲崎海軍航空隊横須賀派遣隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ	○残務整理 第十四戰隊ハ三月四日解隊、残務整理ハ横須賀鎮守府艦船部隊残務整理班ニ於テ之ヲ行フ 追テ郵便物ハ同班宛發送相成度	第十九設營隊ハ三月六日解隊、残務整理ハ吳海軍施設部第四技術係(電話 二二七五番)内ニ於テ之ヲ行フ	○事務所撤去 第四號海防艦艦裝具事務所ハ二月一日之ヲ撤去セリ	○削除 三月一日附海軍公報(部内限)號外辭令欄二五頁四段二十一行目「高橋義」ハ三七頁四段四行目「安井貞治」ハ四一頁三段十行目「丸井輝雄」ハ孰モ削除	○正誤
三月八日附海軍公報(部内限)第四千六百三十五號ノ辭令欄中海軍主計中尉「飯塚義之」ハ「飯塚義之助」ニ、第二十六海軍建設部「ナルナ一テ支部」ハ「テルナ一テ支部」ニ訂正シ海軍主計中尉有賀要之助ノ肩書中「第二十六建設部」ヲ抹消ス 三月八日附海軍公報(部内限)辭令欄三一頁上段中「火口民治郎」ハ「大日民治郎」ノ誤						
○本日普通公報發行セズ						

(別紙)

願書様式(用紙美濃白紙)

(昭和十九年三月十三日海軍公報(部内限))

年 月 日

本籍

現勤務所

職官位勲氏

名 印

海軍大臣宛

齒科醫科士官任用願

私儀

海軍齒科醫科武官任用特例ニ依ル海軍齒科醫科士官志願ニ付任用相成度

(履歴書添)

0716

見所般一 昭和 年 月 日 所轄長職官氏 名 ④	檢體身查 績成	元身 兵役關係其ノ他	況狀庭家概 要			序順拔選		所 見 表
	行性					別部轄所		
						現待遇及 現報酬 (年月日)		
						氏名		
	能技		成績	卒業年次	出身學校	生年月日		
	務勤							

別紙(用紙適宜)

(昭和十九年三月十三日海軍公報(部内限))

0717

(別紙)

履歷書様式(用紙美濃白紙)

履
歴

書

本

籍

戸主職業氏名何男

氏

何年何月何日生

名

一 修學及卒業シタル學校名及其ノ年月日

二 齒科醫トシテノ經歷

右ノ通相違ナシ

年 月 日

右

氏

名

印

(昭和十九年三月十三日海軍公報(部内限))

0718

海軍公報 (部内限) 第四千六百四十號

海軍公報

(部内限) 第四千六百四十號

昭和十九年三月十四日(火)

海軍大臣官房

令 達

官房醫第二八號

海軍技術科士官任用特令ニ依ル採用身體検査ハ海軍志願者身體検査規則及海軍志願者身體検査ニ關スル戰時特例(昭和十八年七月官房醫第九三號)ニ依ル

但シ視力ハ士官又ハ特務士官ニ任用ノ者ニ在リテハ各眼視力〇・一以上ニシテ矯正視力一・〇ニ達スル者、准士官又ハ下士官ニ任用ノ者ニ在リテハ各眼視力〇・二以上ニシテ矯正視力一・〇ニ達スル者ハ之ヲ合格とスルヲ得ルモノトス

昭和十九年三月七日

海軍大臣

官房醫第三六號

海軍軍醫學校ニ於テ特設防疫班タル者ノ講習ヲ施行ス

昭和十九年三月十三日

海軍公報(部内限) 第四千六百四十號

昭和十九年三月十四日

三四五

一 講習課目

チモール島及スマトラ島方面ニ於ケル「マデング熱」等ノ防遏上必要ト認ムル課目特ニ上有効ナル現地清掃作業

二 講習期日

昭和十九年三月十三日ヨリ五日間

三 講習指導官及輔佐官

(イ) 指導官 海軍軍醫學校長 適宜
(ロ) 輔佐官 海軍軍醫學校教官 適宜
海軍省醫務局局員 適宜

四 講習員

別ニ指定ス

五 報告

指導官ハ講習終了後其ノ實施經過概要竝ニ所見ヲ報告スルモノトス

六 旅費

講習員ノ旅費ハ昭和十八年官房經第七號ニ依リ請求

0719

ヲ俟テ別途配布ス

官房備第二八號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十九年三月十三日

海軍大臣

表中第十二海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「専任

十二人判任」ヲ「専任十六人判任」ニ、第二十五

十三人雇員」ヲ「専任十九人雇員」ニ、第二十五

海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「専任十五人判任

任」ヲ「専任十三人判任」ニ、第二十八海軍軍用郵

便所ノ項職員ノ欄所員「専任八人判任」ヲ「専任

十人判任」ニ改ム

（参照）昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナ
リ（内令提要卷一、六四ノ九頁）

官房人機密第五八六號

第三十海軍建設部及第三十海軍工作部ノ職員中特務士

官以下ハ所管ニ拘ラズ吳鎮守府ヨリ補充スベシ

昭和十九年三月十三日

海軍大臣

○通牒

官房人第二六〇號

昭和十九年三月十三日

海軍次官事務取扱

各廳長殿

戸籍記載事項ノ證明書ヲ以テ戸籍謄抄本ニ
代用ノ件通牒

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通司法次官ヨリ照會有之候ニ付
テハ軍人軍屬ノ採用共ノ他ノ場合戸籍謄抄本ヲ必要ト
スルモノハ爲シ得ル限り戸籍法第十四條ノ三ノ規定ニ
依ル證明書ヲ以テ之ニ代用スル様取計相成度

（別紙）

司法省 民事局 民事甲第二七號

昭和十九年一月十七日

司法次官 大森 洪太

海軍次官 澤本頼雄殿

0720

戸籍ノ謄抄本ノ請求ニ關スル件

市町村役場ニ於ケル戸籍事務ハ支那事變以後更ニ戰爭開始以降著シク増加セルニ拘ラズ近時職員減少ノ關係モアリテ繁劇ヲ極ムル現情ニ有之候ニ付テハ曩ニ大正十四年一月十二日附民事第一三〇三四號ヲ以テ貴意ヲ得置候通專ラ戸籍謄抄本作成手續ノ簡素化ヲ圖ラルルノ外特ニ昭和十六年三月法律第七十五號戸籍法中改正法律ニ依ル戸籍記載事項ノ證明制度ヲ十分ニ御利用相成右ヲ以テ出來得ル限戸籍ノ謄抄本ニ代フル様格段ノ御配慮相仰度御所管各官公署、學校、關係團體等ニモ可然御傳達ノ上何分ノ御協力相煩度此段及御依頼候也

(參照) 諸例則卷一、八三六ノ一頁

經物第四九號

昭和十九年三月十三日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件

通知

昭和十七年經物第一三五號第一第四項ニ依ル首題ノ件左記ノ通ニ有之候

記

會社名	所在地
石村惣治郎(東洋造船所)	釜石市大字釜石第二地割一四ノ二
大阪バルブ工業株式會社	大阪市城東區鳴野町八八
河野輝夫(河野輝夫組)	東京都淀橋區下落合一ノ四三五
金田電機株式會社	東京都豊島區雜司ヶ谷五ノ六八〇
神奈川造船株式會社	横濱市神奈川區千若町三ノ二
合資會社鬼頭製作所	東京都大森區大森四ノ三九
倉敷機械工業株式會社	岡山市島田二七八
小(新井義明)(新井製作所)	大阪市西成區津守町四三二
株式會社三葉製作所	東京都荏原區小山五ノ八八
島岡喜(島岡製鋸所)	大阪市城東區關目町二ノ三三
篠原工業株式會社	東京都京橋區京橋三ノ九
大日重工業株式會社	大阪市港區南境川町二ノ二八
近常精機合資會社	東京都京橋區銀座一ノ七

海軍公報(部内限)第四千六百四十號

昭和十九年三月十四日

三四七

中山鐵工所(柴田鐵工所)	尼崎市北初島町五六	昭和十六年經物第一六三號別冊首題名簿中左記ノ者ハ各附記事由ニ依リ前記承認者名簿ヨリ削除致候
日本瀝過器株式會社	東京都世田ヶ谷區玉川等々力町三ノ六	記
日本硬化冶金株式會社	東京都京橋區寶町二ノ一一	
日本銑鐵鋼業株式會社	兵庫縣川邊郡園田村字南清水一ノ二	
仁科工業株式會社	長野縣大字吉田八四九	
富士測量機株式會社	東京都中野區宮園通二ノ一九	
株式會社松岡製作所	東京都蒲田區西六郷一ノ九	
松岡製作所(松岡製作所)	神戸市葺合區脇濱町二ノ四二	
森永工業株式會社	東京都蒲田區糀谷町二ノ六一	
矢野特殊自動車製作所(矢野特殊自動車製作所)	福岡市筥島東本町五一〇	

會社名	所在地	事由
淺香バルブ製作株式會社	大阪府西成區津守町一六七	購買名簿登録者
伊奈製陶株式會社	愛知縣知多郡常滑町字扇面新田中三〇〇	同
株式會社魚津製作所	富山縣新川郡魚津町大字上村木町七七七	同
岡田金屬工業株式會社	京都市左京區二條通川町三〇丁目聖護院蓮華藏	同
大阪電氣鑄鋼株式會社	大阪府豐能郡庄内町大字島江三二	同
共和レザー株式會社	東京都向島區寺島町四ノ一八	同
北多摩工業株式會社	東京都世田ヶ谷區若林町三三四	同
國產工具株式會社	東京都品川區北品川六ノ三五	同
株式會社興亞精機製作所	茨城縣稻敷郡牛久村牛久三一九八	同
小西池秀敬(合金鑄工所)	大阪府西淀川區野里町三九七	同
國華工業株式會社	東京都品川區北品川四ノ五〇一	同

經物第五〇號

昭和十九年三月十三日

關係各廳長殿

海軍省經理局長

前金拂又ハ概算拂契約承認者名簿中削除ノ件通知

0723

三機工業株式會社	東京都麴町區有樂町一ノ一〇	同	株式會社極東精密	大阪市東成區深江西三ノ一四	同
合資會社佐々木商會	東京都牛込區南山伏町一七	同	京濱鋼鐵工業株式會社	東京都蒲田區仲六郷三ノ二四ノ三	同
第一工業製藥株式會社	京都市下京區西鹽小路久保町五〇	同	株式會社小島機械製作所	高崎市高砂町二五ノ一	同
株式會社大成製作所	東京都京橋區京橋一ノ二	同	株式會社金剛製作所	東京都芝區高輪北町三	同
東洋ゴム化工株式會社	尼崎市南竹谷町三ノ一	同	酒井金之助(酒井工作所)	東京都芝區西芝浦三ノ一	同
合資會社名古屋工範製作所	名古屋市港區新川町二ノ一	同	株式會社佐藤機械製作所	東京都日本橋區通一ノ二(國分ビル内)	同
日本斷熱工業株式會社	兵庫縣武庫郡本庄村深江三ノ一八	同	昭和化工株式會社	東京都王子區袋町一ノ一三八	同
不二工業株式會社	名古屋市南區中道町二八	同	臺灣船渠株式會社	基隆市大正町一	同
株式會社三吉鍛工所	東京都蒲田區羽田本町三四七	同	株式會社高尾鐵工所	神戸市葺合區吾妻通三ノ三	同
理研スプリング株式會社	東京都小石川區春日町一ノ一	同	東邦自動車工業株式會社	東京都日本橋區室町二ノ一ノ一	同
理研電化工業株式會社	靜岡縣由金二ノ一〇〇	同	日本カボック工業株式會社	東京都本郷區靜岡町三ノ二五ノ二	同
リードミシン株式會社	東京都芝區芝浦三ノ一	同	日本油機製造株式會社	東京都芝區田村町三ノ一	同
理研護謄工業株式會社	東京都小石川區春日町一ノ一	同	野村製鋼株式會社	東京都日本橋區通一丁目(野村ビル)	同
株式會社加藤製作所	東京都品川區大井鰯洲町二三三	同	株式會社フシマン製作所	東京都品川區大井伊藤町五八八	同
勝山鍛造機株式會社	大阪府大正區南恩加島町四七八	同			

海軍公報(部内限) 第四千六百四十號

昭和十九年三月十四日

三四九

0724

海軍公報(部内限)第四千六百四十號

昭和十九年三月十四日

三五〇

古莊航空工業株式會社	熊本市春竹町一〇六六	同
松尾橋梁株式會社	東京都城東區南砂町四ノ六二四	同
東京支店	大阪市大正區難波島町一ノ二七	同
株式會社前田造船所	東京都城東區南砂町九ノ二四七〇	同
株式會社宮地鐵工所	東京都麴町區丸ノ内二ノ六	同
山武工業株式會社	桑名市大字桑名一五〇	同
山本重工業株式會社	東京都麴町區內幸町二ノ八	同
橫山工業株式會社	東京都芝區田村町一ノ二	同
東京電燈株式會社		

堀川種敏	男澤孝司	永森敏雄	伊藤鐵雄	岩見善勝	稻田晴之	池田久順
------	------	------	------	------	------	------

(各通)

石井眞	大前朔郎	奥村靜雄	渡部惣太郎	鷺山丈司	吉武博	田村稔	田口強一	竹内滋美	津田直一	村上敏男	村田尊夫	山田武夫	慶德正敏	藤元良喬	小部一哉	阿部卓造	佐藤徹一	行德徹彦	御子柴昇	宮地哲夫
-----	------	------	-------	------	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

海軍豫備學生ヲ免ス(海軍省)
海軍主計大尉 江渡 武太郎
富山海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝員事務所ニ要スル經費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス
海軍大佐 松永 敬介
第一課第十二課長ヲ命ス(海軍司令部)
海軍大佐 松永 敬介
參謀部第一部第十二課長ヲ命ス(海軍大本營海軍部)
海軍大佐 藤田 精一
資金前渡官吏ヲ免ス

海軍主計大尉 中村 嘉人
福岡海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝員事務所ニ要スル經費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス
海軍大佐 平島 正實
資金前渡官吏ヲ免ス(以上支出官海軍省經理局長)
○雜款
○西戸崎ニテ石炭積取ノ件
本廠生産ノ石炭ハ西戸崎ヨリ各需要應ニ海上輸送致居候處最近輸送力逼迫ノ爲西戸崎貯炭場滿載勝ニテ出炭ニ影響スル所大ナルモノアルヲ以テ各應用船舶西戸崎方面航行ノ際ハ成ル可ク同地ニテ石炭積取り歸航又ハ船舶用燃料炭補給ノコトニ取計ヲ得度
追テ該當船ハ入港前日迄ニ日時、艦船名、積込炭種及數量ヲ左記宛通知相成度
記
福岡縣糟屋郡志免町 第四海軍燃料廠
(電話福岡東四〇四〇)
(第四海軍燃料廠)
○支那方面艦隊自動車運轉員技倆檢定合格者ニ關スル件

首題ノ件昭和十八年官房人機密第五九三號（本年官房人機密第三五〇號改正）ニ依リ掌内火兵（自動車班）又ハ内火術特技兵（自動車班）ニ爲シ得ルコトトナリタル處從來右該當者ニ對スル履歴記入竝ニ下士官兵身上取扱規則第八條ニ依ル通報未済ニ付本人ノ考課調査表ニ依リ履歴記註竝ニ通報方取計ヲ得度

（支那方面艦隊副官）

○事務開始
第二〇六設營隊ハ三月六日横須賀海軍施設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

0726

別紙（用紙適宜）

（昭和十九年三月十三日海軍公報（部内限））

見所般一	檢體身查 績成査	元 身 兵役關係其ノ他	況狀庭家 要概			序順拔選		所 見 表
						別部轄所	現待遇及 現報酬 （年月日）	
	行 性					成 績	卒業年次	
能 技								
務 勤								

昭和 年 月 日
所轄長職官 氏 名 ㊦

0727

(別紙)

願書様式(用紙美濃白紙)

(昭和十九年三月十三日海軍公報(部内限))

年 月 日

本籍

現勤務所

職官位勲氏

名 印

海軍大臣宛

齒科醫科士官任用願

私儀

海軍齒科醫科士官任用特例ニ依ル海軍齒科醫科士官志願ニ付任用相成度

(履歴書添)

0728

(別紙)
履歷書様式(用紙美濃白紙)

履
歷

書

本

籍

戸主職業氏名何男

氏

何年何月何日生

名

一 修學及卒業シタル學校名及其ノ年月日
二 齒科醫トシテノ經歷

右ノ通相違ナシ

年 月 日

右

氏

名

印

0729

海軍公報

(部内限) 第四千六百四十一號

海軍大臣官房

昭和十九年三月十五日(水)

○告示

海軍省告示第一號ノ二

大正十一年海軍省告示第五號中「第一艦隊及」ヲ削ル

昭和十九年二月二十五日

海軍大臣

(参照) 大正十一年海軍省告示第五號ハ第一艦隊及第二艦隊ニ海軍軍法會議ヲ置クノ件ナリ(諸例則卷四、四四九頁)

海軍省告示第一號ノ三

第二艦隊軍法會議ヲ第一艦隊軍法會議ノ後繼軍法會議ニ指定ス

昭和十九年二月二十五日

海軍大臣

海軍省告示第一號ノ四

第一機動艦隊、中部太平洋方面艦隊及第十四航空艦隊ニ艦隊軍法會議ヲ置ク

昭和十九年三月四日

○令達

官房需機密第八五號

當分ノ間艦營需品支辨以外ノ各應ニ要スル軍艦旗及將旗ハ各海軍軍需部(各特設海軍軍需部ヲ含ム)在庫ノ艦營需品ヲ繰替供給スルコトヲ得

補填費目ハ各當該費目ニ依ルモノトス

昭和十九年二月二十八日

海軍大臣

○通牒

軍務一機密第二四二號

昭和十九年三月十一日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

試製三式超短波探知機要員ニ關スル件申進

海軍公報(部内限) 第四千六百四十一號

昭和十九年三月十五日

三五三

0730

(參照) 昭和十八年七月二十二日海軍公報(部内限)七七二頁

昭和十九年三月十三日

海軍省軍務局長

關係鎮守府、警備府參謀長殿

入團（隊）者ノ挨拶狀ニ關スル件申進

新入團（隊）者ノ挨拶狀ハ最近ニ於テハ一年間三千萬
通ヲ突破スルノ狀況ニ有之候處物資節約及通信量節減
ノ爲極力之ヲ抑制セシメ眞ニ己ムヲ得ザル父兄宛ノミ
ニ限定セシムルコトト致度

尙入團（隊）前挨拶狀ヲ印刷ノ上携行スルモノ有之趣
ニ付徵募等ノ際豫メ抑制スル様示達方取計相成度

運本機密第四五七號

昭和十九年三月十三日

海軍運輸本部長

關係各廳長殿

[illegible]

軍 用 第 三 種			
標記荷重砲數 迄積載シ得			
銃包	銃小	機銃	工兵火
包銃、拳銃、各種彈藥及小銃、各種彈藥	口徑二〇耗未滿ノ機銃、各種彈藥包及小銃、各種彈藥	火工兵器類ニシテ藥劑火藥類ヲ填實シアラザルモノ	彈丸、爆彈、機雷、實用頭部等ニシテ火藥類ヲ填實シアラザルモノ
		無危 險品	無危 險品

備考 (一) 火藥類二種以上ヲ混載スル場合ハ其ノ小ナル砲數ニ依ルモノトス
(二) 本掲ノ標記荷重砲數ハ新制定ノモノニシテ從來ニ比シ一乃至三砲増加セルモノナリ

二 實施要領
(一) 鐵道軍用輸送券ノ輸送人馬、物件欄ニ第一號ノ區分ニ依リ 軍用第、種 ヲ附記スルコト
(二) 昭和十九年三月十五日ヨリ實施ス

水機密第一一五三號
昭和十九年三月六日
關係各廳長殿

水 路 部 長

南洋諸島地圖ヲ軍事極祕地圖ニ編入ノ件
通牒
首題ノ件ニ關シ大本營陸軍參謀部ヨリ別紙ノ通り通牒有之候條了知相成度
(別紙)
大本營
陸軍部參密第二二號第一
昭和十九年二月二十八日
大本營陸軍參謀部總務課長

水 路 部 長 殿
南洋諸島地圖ヲ軍事極祕地圖ニ編入ノ件
通牒
別紙目錄ノ地圖ヲ軍事極祕(戰地ニ在リテハ軍事祕密)地圖ニ編入セラレタルニ付左記ニ基キ整理相成度依命通牒ス
記
一 各部隊(戰地ヲ除ク)、官衙及學校ニ保管シアル別紙目錄ノ地圖ハ各所管毎ニ取纏メ昭和十九年四月末日迄ニ參謀本部ニ送付ス
但シ將來保管ヲ必要トスルモノハ別ニ取纏メ提出シ所要ノ標記及一連番號ノ記入ヲ受クルモノトス
尙個人交付ノモノアラハ之カ回收ニ遺憾ナキヲ期セ

海軍公報(部内限)第四千六百四十一號

昭和十九年三月十五日

三五五

0732

○ 辭 令

海軍省人事局事務囑託ヲ解ク(昭和十六年四月二十二日海軍省) 佐藤 信吉

囑託(日産丸無線局長) 窪田 準一
舞鶴海軍港務部業務ヲ囑託シ自今報酬年額貳千四百六拾圓ヲ給ス(待遇如故)(昭和十七年七月一日同)

舞鶴海軍港務部囑託

窪田 準一

自今報酬年額貳千六百圓ヲ給ス(昭和十八年四月二十二日同)

運輸通信理事官 長崎 榮重

吳海軍施設部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(昭和十八年十一月二十二日同)

各) 貳千六百六拾圓 室津丸船長 岡 市之進

(通) 千八百圓 同 機關長 林 克巳

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給ス(昭和十八年十一月二十二日同)

囑託(軍屬船員)ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(昭和十八年十一月二十六日同)

村上 幸一

台灣總督府典獄補 山本 榮三

海南海軍施設部業務ヲ囑託ス(昭和十八年十一月二十二日同)

支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(昭和十八年四月二十二日同) 兒玉 信治郎

河 根 誠

海軍機關學校教授ヲ囑託ス

但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(昭和十八年十一月二十二日同)

田中 正吾

土浦海軍航空隊業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

高橋 鐘造

角田(仁之助)

谷 義 隆

鈴木 隆

國本 靜夫

海軍艦政本部業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上三月一日同)

(各通)

稻葉 義春

廣海軍工廠海軍共濟組合醫療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千四百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

海軍公報(部内限) 第四千六百四十一號

昭和十九年三月十五日

三五七

0734

中島 進治

海軍技術研究所研究業務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス

味生 勝

吉相 金次郎

伊藤 常太郎

高橋 勳

藤井 爲夫

西村 正雄

玉木 宏

塩崎 義弘

橘高 信夫

永澤 清一

清水 信夫

森口 重市

村田 富雄

黒岩 寛

海軍技術研究所研究業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

大阪帝國大學助教授 渡瀬 讓

(各通)

同 伊藤 順吉

海軍技術研究所研究業務ヲ囑託シ報酬年額四百圓ヲ

贈與ス

海軍技術研究所研究業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額四百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

大阪帝國大學助手 小林 省己

海軍技術研究所研究業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額參百圓ヲ贈與シ部内限奏任官待遇トス

眞下 綠三郎

海南海軍特務部業務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス

戸田 亨

(各通)

横澤 國雄

須藤 五郎

海南海軍特務部業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

山田 清作

阪本 善彌

戸田 孝六

萩田 小一郎

(各通)

海軍技術研究所研究業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

0735

各 六百圓 東京帝國大學助教 栗野 誠一 (通 四百圓 電氣試験所技師 中路 幸謙 海軍技術研究所研究業務ヲ囑託シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ贈與ス		海軍省事務囑託ノ報酬トシテ金百參拾圓ヲ贈與ス 田邊 景憲	
海軍省事務囑託ヲ解ク 子爵 齋藤 齊		海軍省人事局事務囑託ヲ解ク 海運局書記官 林 垣	
(各通) 海運局事務官補 土岐 優		門司在勤海軍武官府事務ヲ囑託ス 公立中學校教諭 角澤 良男	
海軍航空技術廠工員養成所教務ヲ囑託シ報酬年額參百五拾圓ヲ贈與ス 地方技師 古川 薫		第一海軍衣糧廠研究業務ヲ囑託シ報酬年額參百圓ヲ贈與ス(以上同) 海軍中佐 小手川 邦彦	
(各通) 海軍主計大尉 工藤 誠爾		第一課勤務ヲ免シ第三課勤務ヲ命ス	
兼第三課勤務ヲ命ス (各通)		海軍主計中尉 羽倉 重年	
第三課勤務ヲ命ス(兼海軍省人事局) 同 植松 元彦		同 横地 正義	
同 海軍兵曹長 倉持 美作		同 石川 健逸	
同 寺井 義守		同 末國 正雄	
同 平田 春生		同 神川 武夫	
同 海軍中佐 神川 武夫		同 工藤 勇	
同 海軍中佐 末國 正雄		同 石川 健逸	
同 寺井 義守		同 平田 春生	
同 植松 元彦		同 横地 正義	
同 倉持 美作		同 倉田 才次	
同 海軍省經理局長		同 倉田 才次	
○應舎移轉 大阪海軍運輸部神戸支部應舎ハ三月六日神戸市神戸區海岸通二番ニ移轉セリ		○雜 款	

海軍公報(部内限)第四千六百四十一號 昭和十九年三月十五日 三五九

0736

電話三宮 一〇八一番、一〇八五番
追テ夜間當直用電話ハ三宮一〇八五番ヲ使用相成度

○事務開始

京城海軍監督官事務所ハ一月十五日京城在勤海軍武官
府内ニ於テ事務ヲ開始セリ

松艦裝具事務所ハ三月四日舞鶴海軍工廠内ニ於テ事務
ヲ開始セリ

霜月艦裝具事務所ハ三月五日長崎市飽ノ浦町長崎海軍
監督官事務所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

第二百三十五設營隊設立事務所ハ三月八日舞鶴海軍施
設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○殘務整理

第二期軍醫、藥劑、技術、齒科醫見習尉官教育部ハ三
月五日解部、殘務整理ハ青島方面特別根據地隊司令部
内ニ於テ之ヲ行フ
(青島方面特別根據地隊見習尉官教育部)

○事務所撤去

第十八號海防艦艦裝具事務所ハ三月八日之ヲ撤去セリ

○取消

二月十五日附海軍公報(部内限) 號外三頁上段二十行

目「建川丸三等機關士小川信一」ノ辭令ハ取消

○正誤

昭和十八年十月十五日附海軍公報(部内限) 號外二頁
下段十四行目「阿久津勇藏」ハ「阿久澤勇藏」ノ、二
月九日附海軍公報(部内限) 令達欄一八四頁官房艦機
密第二三號ノ一一ノ發令月日「二月九」ハ「三月九」
ノ孰モ誤

○本日普通公報發行セズ

0737